

## 第4回藤沢市地域福祉計画推進委員会報告

2014年（平成26年）2月19日（水）

午前9時45分から正午まで  
藤沢市役所総合防災センター4階

災害対策本部会議室

北島副委員長ほか14名出席

（石渡委員長、松永委員、

石井委員、石川委員、

大田委員欠席）

### 1. 開会

あいさつ 北島副委員長、秦野福祉総務課長

以下、北島副委員長により議事進行

### 2. 次期地域福祉計画の策定について

#### 1) アンケート調査結果報告書について

資料（「地域福祉に関するアンケート調査報告書（作成中）」、「地域福祉計画見直しに向けた方向性に関する調査報告書（構成案）」を基に市側が説明を行った後、議論を行った。

委員：方向性に関する調査報告書の社会情勢のところ、今後大きな影響があるといわれる障がい者権利条約の批准について、ぜひ取り上げてほしい。

市側：障がい者権利条約については、資料「方向性についてこれまでの論点（まとめ）」でも触れていますが、批准により、例えば障がい者の人権施策を相当充実させるですとか影響があると思いますので、社会情勢の中でも取り入れていきたい。

委員：方向性に関する調査報告書の「藤沢市の動向」の中で、統計の数字が一杯出ている。この数字のどういう所につけなくちゃいけないのかというコメントがついていると非常にありがたい。

市側：現状については、それぞれコメントをつけたいと思います。

委員：社会情勢の介護保険制度の見直し、その背景は高齢者人口が多くなっているということ。住民基本台帳の所を見ればわかるのですが、もう少しわかりやすくするために、高齢化率も出していただければ。

市側：わかりました。

委員：アンケート調査報告書と、方向性に関する報告書の数字的な見解とで、どういった差があるのか、というのを整理してほしい。そういった所が、今後

の論点や活動していく上での方策のポイントになるのではないか。

市側：前日も、市全体の統計データと何か差があるのかというご意見をいただいていますし、重要なポイントが見当たるかもしれないので、少し差をみて整理していきたい。

委員：我々とか市役所の職員も含めた方向性を、先進的な考えを入れる中でもう少し整理をされた方がいいかなと思う。

委員：方向性に関する調査報告書の8ページ「障がい者（児）の概況」ですが、多分これは手帳を所持している方の数かと思います。発達障がいなどが障がいに加えられているので、そういう方達の数も合わせていれてはどうか。あと精神障がいなどでよく言われるのですが、実際は手帳を取らずに医療を受けている方がこの倍いらっしゃる。例えば〇〇人が手帳を持っていて、括弧書きで自立支援医療を受けている方が●●人と表記してはどうか。それと、高齢者の方のサービス利用等に関しては施設等が入っているのですが、できたら障がいの方のサービス状況の概要もあった方が今市内にどんな事業があるのか、障がい福祉課が把握していると思いますので、是非入れてほしい。

市側：障がい福祉課と調整し、データをまとめたい。

委員：ノンブル（ページ番号）は普通全通しかなくと思うのですが、分けた理由がありますか。それとクロス集計について、縦軸方向で見て網掛けをするという説明でしたが、例えば5ページの場合だと1人で住まわれている方が一番多い地区は湘南台ということで網掛けがかかるのか、湘南台地区では4人家族が1番多いですよということで網掛けがかかるのかどちらでしょうか。

市側：地区別で見ますので、網掛けしてある例でいくと、片瀬地区で同居人数が多いのはどこかということで、片瀬は2人家族が31.4%で一番多いので、31.4%のところに網掛けがかかります。

委員：網掛けは、その狙いというか目標というか、そこを攻めていくんだというところにかけた方がよい。ただ1番多いところにかける、ではないと思う。同居人数の項目で1人が問題なのか、2人が問題なのか、3人が問題なのか、はじめから1人が問題だという考えであれば、1人が多い地区に網掛けをするのでは。だから、狙いによって網掛けをするところが全然違っちゃう。ただ数字を求めただけであればよいが、後でそれを生かすために数字を取ったのであれば、どの数字に網掛けをするんだということにならないと。

市側：単純集計では、一番多かったところに網掛けをつけるのは、そうだと思うのですが、おっしゃっているのは、クロス集計でどういったところに網掛けをつけるかという話だと思います。特徴的なクロス集計結果を、アンケート調査報告書では載せていきますので、それは市として、ここが狙いどころというか、特徴だということを指し示すために載せるという話になる。今の5

ページについては、世帯の人数は減ってきているのではないか、そういう傾向の地区が増えていくのかなと思っておりまして、そういった意味では、2人世帯が増えています、と。この2人世帯が若い夫婦なのか高齢者夫婦なのかは、また細かい部分で触れていく形になると思います。

委員：今の話だと、村岡は3人が一番多いですが2人に網掛けがついています。これは掛け間違いと取ってよろしいのですね。

市側：すみません、その通りです。

委員：そういう箇所が結構ある。この表も、村岡で一番多いのは33.1の3人家族、湘南台は24.8で4人家族、と単純に多いのを網掛けしていけば、それがその地域の特徴だというふうに理解できる。そこにちょっとミスが目立つので、正確にしていきたい。あと今、行政の意向に則って網掛けをする必要があるのでは、というご意見がありました。単純にこの数字の表し方だけを強調すればよいと私は思います。

市側：両方のご意見ある方いらっしゃいますので、持ち帰って検討したい。

委員：クロス集計の自治会の加入状況が非常に参考になる。意外と加入している世帯が多いなという実感です。私は自治会連合会の関係ですから、特に自治会の観点から色々見ているのですが、これが多いということは、自治会がもうちょっと積極的に何か動きをする必要があるし、それによって地域福祉の課題、防災や防犯もひっくるめて解決の度合いがあがってくると思えました。もう一つ、ボランティアセンターを知らないという数字が圧倒的に多いのは、非常に大きな問題だという認識です。この辺を攻め口として見ていったほうがいい。この結果には、全く驚くと同時にさもありなんと、私自身も知らないことがありますし、行政または地域の我々がどうやって存在を周知するのか、逆に知らなくてもどうにかなっているからいいのかとか、この辺りを何らかの形で反映していく必要があるかなと思っています。

委員：それは地区別に特徴があって、御所見地区には施設がないので知らないのは当たり前。地区ボランティアセンターは13地区で10地区しかない。わざわざ他の地区のボランティアセンターに行く必要もないし、市民活動推進センターも、今湘南台に2つ目ができたんだけど、これまでは藤沢（駅北口）だった。そういう所を利用せず、市民センターを利用する人が結構多い。そういう傾向もあるから、なぜその数字が出たのかという要因も含めて、そこに力を入れる／入れないというのは、しっかりと整理した方がいい。

委員：片瀬地区は非常に町内会の自治会の加入率が高い。でも、加入していない理由として、加入の仕方がわからないとか、近所とのつきあいがいないとか、親しい仲間が近所にいないとか、が高い。ということは加入していない人も含めて、非常に横のつながりが少ない方が多いのかなと。そこが複雑なところ

だというのがこのデータでよくわかった。要因としては、年齢もあると思うが、そういうところで子ども会が最近悲惨な状況になっているのではないか。町内会には入っても子ども会は入らない、その割合が非常に高くなっている。まだ方向性についての議事ではないですが、おっしゃる通り町内会の加入率が高いわけだから、そこに青少年や子育ての支援を何らかの形で求めていきたいと思ったんです。子ども会を含めて青少年部みたいなものが、自治会の中にあるというのが必要になってきているのかなと感じました。

委員：ご承知のように13地区に自治会連合会があります。私どもの長後地区は自治会が39あって、それで自治会連合会というのを作っています。自治会の中には今おっしゃいましたような**青少年育成協議会**、いわゆる自治会の青少協を含めまして、防犯とか防災とか色々組織があって、それなりに動いているんですが、自治会連合会というのは、その39自治会のいわゆる親睦団体的な役割というか立場というか、そういう状況なんです。ですから、そういうところを積極的に啓発しようという動きが非常に鈍いと思っていまして、私のところの自治会連合会はまずそこから変えていこう、自治会連合会のトップをそれなりに意識・認識を持った人間がなれるようにして、運営を変えていこうと、これから色々な施策をうっていくつもりです。その中で一番重要なのは、自治会への加入率でして、**(※事務局注：あくまでアンケートの結果ですが)**加入率が9割を超えているというのは、知らない方に啓発活動をするのは当然ですが、加入されていない方の少ない数字をとにかく言うより、9割加入している人達をどうやって地域貢献や地域福祉に目を向けてもらうか。その活動の中で、やはり子ども会が課題です。自治会と連携して色々行事をやるんですけども、子ども会が自由に、どんどん解散していく。だから、子どもの思い出作りのために、自治会という枠の中で我々が支えるから、子ども会をなるべく継続してくれという形がとれるかとれないかによって、どんどん衰退の方向にざあっと向かっちゃうんです。そういう単位自治会の動きとその上の自治会連合会をそれなりにやっついていかないと、どんどん崩壊していく隣近所付き合いを唯一支えられる組織が自治会ではないかと私は思っておりますので、そういう観点でこのアンケート結果を見ながら、よその自治会の方にお話をする必要があるかなと感じています。

委員：自治会町内会の中には地域団体が沢山ある。ただそれも活動がだいぶ鈍っていると聞いていますので、自治会町内会が意識のある方向に高めていく、同時に子ども、青少年の支援もやっていただけるようなことがあれば、本当に嬉しく思う。それで、青少年育成協力会というのがあって、私も片瀬地区で長いこと入っていますが、自治会町内会との関係は薄い。青少協の場合は、青少年に関する指導員、PTA、あと学校の先生と地域団体の長は入っている

んですけれども、そういう感じで動いているので、まあ全体を捉えちゃうんですね。でも一つの地域の中でもまた地域性があるので、そこを密に捉えた子ども達の青少年育成があると全然違った形になる。子どもと大人が一体となって活動するという子ども会の重要性を青少協の中に取り入れるのはなかなか難しいので、そちらを自治会町内会の中に盛り込んでいければ、一番の地元ですから、青少年にとって素晴らしいことですし、ふるさとを思う人間になれるのでは。大人になってからではそうはならないと思いますので、委員がおっしゃるような方向で是非努力をお願いしたいと思います。

委員：そういう地域団体の活動によって加入率もかなり上がってくるんじゃないかなと思うんですけど、今回の大雪で、地域の特性があるから御所見地区の事例になってしまうけど、子ども達の通学路が雪で一杯になっちゃった、一早く子ども達のために雪かきをしようということで、御所見地区は重機や色んなもの持っているから、すぐ皆さんがボランティア的にどんどん雪かきをした。それが支えになって、今、この雪が降った後にアンケートをとったら、この支え合いが日頃の身元の安否の確認に対してもいいよっていうのが結構増えちゃったと思う。そういうのが決め手で、普通の年間行事でやっている支え位ではもう慢性化していて全然注目も集まらない。雪かきは、その時ひょっとボランティア精神があったから、あるいはそういう環境だったからできたのかもしれないけど、そういうちょっとしたことが、かなり自治会加入率に影響してくると思う。助けられれば、ああこの地域の人達は助けてくれる、じゃあ私も加入しよう、という気持ちになる。今回の事例で、日頃のそういう支え合いに、しっかり目を向けないと駄目かなと思いました。

副委員長：ありがとうございました。ボランティアセンターについては、ない地区が少しありますが、知らないというのはこんなに多いのかなあという気がします。また、町内会に入る／入らないは切実な問題でどの地区でも関心があることです。ただ自治会の加入率については、もっと悪いんじゃないかと思っていますが、まあ地区によって違います。アンケートは全員が対象ではないので多少の誤差はあると思いますけれども。自治会が必要だというのは今のお話のように、私達は現実に行っているので大変身近に感じます。こういうことが何回もあっては困るんですが、何かあった時にはやっぱりそれが底力になると思いますので、**周知を**していただきたいと思います。

まだご意見ある方いらっしゃるかもしれませんが、次の議題がありますので、ここで一応区切りをつけたいと思います。

## 2) 次期計画の方向性について

資料（「方向性についてこれまでの論点（まとめ）」）を基に市側が説明を行った後、議

論を行った。

副委員長：今事務局からご説明がありましたので、これから皆様からのご意見やご質問をいただきたいと思います。

(少し間があったので) 先ほども出たボランティアセンターの知名度向上について、私の所では登録制で1年間1000円の会費でやっているんですけども、今登録してボランティアを受ける方が260人位、ボランティアをやるという人が同じ位で260人、全部で520～530人位いる。やる方の人があんまり多いと、1年に1回しか出られないということがあって、登録しても何もできないじゃないか、活動の場所がないんじゃないかと時々電話で文句を言われる。そんなことで、あまり知られてないというアンケート結果がちょっと腑に落ちていない状況で今後どうするか、あんまり増やしても1年間に1回か、全然活動できないと、文句の電話がくるし。

もう一つは私どものところで小さい町内で、約400世帯1, 200人位なんですけれども、もう24～25年位、青壮年部といって若い人達から60過ぎまで、今40人位入っています。特に新しく転入した人達がこぞって入って、餅つきやったり、色んなイベントやったり、お酒を飲んだりしている。これは割合老人会の予備軍となっていて、60才以上は6人位なんですけれども、予備軍だよって言っている。それはいい方で、失敗したのは、子育てが終わった女性の方が集まって母親クラブというのをこれも20年近くやってきたんですけれども、こちらは色んなことがありまして、発言権の強い人ががっとうてきまして、結局は去年、空中分解してしまった。女性の加入というのは難しいなあと感じた。なかなか地域密着というのは難しいですけれども、この位のことしか地域では出来ないのかなあというふうに思っております。まあ参考にはなりません、以上です。

委員：方向性と論点は、私はこれでいいかなと思う。ただ、展開をどうするか。「<論点4>地域への計画の浸透について」で、今なんでこれが進まないのか、計画が浸透していないということがどうもひっかかる。そこで、センター長会議でこの委員会が出したことをもう少しちゃんと議論してもらうことも必要かなと、この間副市長にちょっと話かけをしてみた。私は、計画の浸透をどう図っていくのかというのが今後の課題だと思う。アンケートの結果を見ても、問題意識は皆どこの地域も強い。ただ、改善意識、意欲はあるかというとなかなか出てこないように思う。だから、改善意識、改善意欲をどう引き出して、地域福祉計画の中に活かしていくかが課題であると認識している。ですから、この委員会でも、改善意識を強く持って「こういうのはこうしたらいいんじゃないか」というのは、皆さんからは結構出ているので、次の計

画の中に、そういったところをしっかりと入れ込んで、計画の冊子を充実したものにしていきたいと思います。

副委員長：確かに今地域に浸透させるというのは、非常に難しい。実際地域でやっていますので、その通りだと感じます。いい冊子を作っても浸透しない。

委員：回覧を回したって見ない。だから難しいんです。

委員：ボランティアセンターの周知ということで、この間の雪の日に思ったことですが、うちは片瀬山の山の上で、降った日の次の2日位は、全く人通りもないし、新聞も郵便も来なくて、その間もしここで病気になったり、怪我したりしても誰も助けには来てくれないだろうと思って、なにか息を潜めた感じだった。結局雪がとけて1番最初に行くところは、まずスーパーですね、それから郵便局、銀行。ですから、ボランティアするきっかけって言うんですけど、ボランティアセンターも場所が限られているし周知度も少ない、公民館もちょっと離れているという中で、ボランティアを頼みたいというコーディネートの場所や資料の置き場として、1番皆さんが行く、絶対行かなきゃならないという場所はどうかと思った。

また、この郵便局が民営化で色々買い物などサービスをするようになったという記事を新聞で見たんですけど、郵便屋さんにも雪がとけてくると、なんとかバイクで来てくれるので、安否の確認や電話をかけて買い物を頼んだり、そういうことは出来ると思うし、新聞も1日2日とっていなかったらちょっとおかしいなと気づいてもらうとか、新聞をとる人が少なくなると勧誘とかよく来ますけど、新聞配達とか郵便配達の利用は考えられないかなと。

他にも、例えば若い方でしたらスポーツセンター。それから意外とファミレスで若いお母さん達がお子さん連れてお食事なんかしてらっしゃる。そういった所にチラシを置いて、スポーツクラブを利用する若い方や定年後の方など元気な方がふっとそれを見る、銀行、郵便局にコーディネーターの資料のコーナーを作って、何気なく年金おろしに行ったら、これ位のことだったら出来るかなというような、きっかけというのは案外何気ないところから始まる、わざわざボランティアセンターに行かなくてもきっかけが出来るかもしれないと思うんです。ボランティアセンターも開いている時間も限られていて、4時になると閉まっちゃうので、割と使いにくいですし、市役所や公民館もほとんど行ったことがないという方が多いので、その辺ちょっと利用したらどうかあとと思いました。

委員：それからもう一つ、方向性に関する報告書の構成案で、保育園や老人福祉施設の状況というのがあったんですけど、今待機児童ゼロを目指すとかありますけれども、藤沢市の場合は待機児童はどの位いるのかというのも掲載したらいいかなと思う。それから老人福祉施設もこれからどの位できる可能性

があるかとか、待機者はどの位あるかという、コメントが添えてあるとよい。

市側：数字はございますので検討させていただきます。それから、浸透をどうしていくかについて、ヒアリングの中で出た例なんですけれども、浸透は、それが地域の皆さんや役員の皆さんがメリットを感じられるようなものでないと今後難しいんじゃないかというご意見が出ておりました。先ほどの大雪じゃないですけど、特に防災は幅広く共通認識が得られるテーマかなと思いますので、そういったテーマを持ってやっていけば、地域のつながりを作り出すことができるかなと考えています。ちょっとそれが計画にどこまで入りきるかというのは検討する必要がありますけれども。

委員：確認ですが、ふじさわボランティアセンター、藤沢市市民活動推進センターはどこにあるのか。それと地区ボランティアセンターは、無い地区があるとのこと、その辺りの状況をかいつまんで教えてほしい。

市側：ふじさわボランティアセンターは社協の中にございます。市民活動推進センターは、藤沢駅の北口から徒歩10分ほどですが、そちらに一ヶ所と、秋頃に湘南台にもう一ヶ所出来たという形になります（湘南台文化センター2階、10月9日～）。業務内容としては、福祉だけでなく市民活動全般、ボランティア活動やNPOの社会貢献活動も含めて支援をしていくもので、具体的にはコーディネート、あと作業スペースを設けたり、という状況になります。

市側：地区ボランティアセンターにつきましては、10ヶ所ということで、13地区でないところは、湘南台、御所見、長後の3ヶ所になります。ただ市としましては、藤沢地区は、東部・西部ということで2地区で考えています。そういう意味では東部地区の方がございませぬので、計画としてはこの4つを増やしていきたいと考えております。

委員：加えて、どんな運営形態でやっているか。社協は社会福祉法人。市民活動推進センターは指定管理。多分地区ボランティアセンターはまた違う。一般からすると運営はみな同じく市がやっている感じをうける。

市側：地区ボランティアセンターの運営形態としては、半分の5ヶ所が地区社協がやっている所となります。後の5ヶ所は、名前としては、地区社協ではなく別組織を作ってやっている所が多いんですけれども、実態としては、地区社協の方が関わっているケースが多い。本当に関係なくやっているのは、善行位で、善行の地区ボランティアセンターは地区社協とか自治会町内会が関わっていないというんですか、そういう形で運営がされています。

委員：実は御所見地区もボランティアセンターを作ろうって郷土づくり推進会議でやってきた。しかしながら、「作っても「支えてください」という人がいないと始まらないんじゃないの」という話になった。で、善行にも勉強に行ったんです。善行はやっぱり山坂が多いからお年寄りが非常に困る、だから、



買い物、草むしりや物の移動といったお手伝いがほとんどなんです。地域によって、お手伝いする内容がちょっと違うと思うんですけど、御所見はそういうことで駄目になった。地区ボランティアセンターの設立は、市民センターが中心となってやりなさいという指針が市から出た時期があるんです。だけど御所見はやる気もなかったからじゃあしょうがないな、ということになった。だから、今でも作ろうと思えば、やる気があればできる。

善行はプレハブの素晴らしい、広いセンターがある、明治は新しいまちの中にある、だけど他は、市民センターの中にちょっと間借りをしてやっているところもある。お金のあるなし、やる気のあるなしでセンターの中身も質も全然違っている。市民活動推進センターは、設備があるから、機器を使って製本などの作業や、部屋を使って会議ができるが、御所見からは遠いので、コピーも市民センターでやる方が速い。どっちも自分でやってお金はとられる。だから、私は地区ボランティアセンターも市民活動センターも、市民センターの中にちょっとした機能を持てば、十分対応できると思う。地区ボランティアセンターをもうちょっと増やすのなら、全市に、ちゃんとセンター別に作るんだというのをちゃん打ち出せば、出来ていくと思う。

委員：市のボランティアセンターは私ども社協が運営をしているわけなんですけど、これまで、情報の提供、それとボランティアをやりたい人に対する講習会、そういうことはやっているんですが、今、場所が玉半ビルで、藤沢駅南口の東京電力の反対側の玉半ビルの3階にあるんですが、市役所とちょっと離れているということで、市民・ボランティアの方が来て活動する場所もない。よっぽど地区ボランティアセンターの方がスペースが広い所もあります。まあそういう状況なんですけど、ボランティアセンターの周知啓発については、確かに今までなかなか取り組んで来なかったというのはあります。今後は力を入れていきたいということで、若者がボランティアセンターにしる、情報はインターネットからとっているんで、今ホームページの方をリニューアルしてしまして、4月からは、新しいホームページの中でボランティアセンターもピーアールしていきたいと考えています。現状としては、そんな状況だということでご理解ください。

委員：私、障がい者団体の親の会とかそういうところは、障がいのある方々の相談を受けているんですけども、私を含め、どの会長さんも個人の家でやっているんです。この雪の日なんか例え事業所が閉まってしまっただけで、家で閉じこもっているという人の電話が、私の家に来るんですね。私も自分のところの事業所が閉まっていますから、自分の子どもを介護しながら相談を受けるわけです。それで、例えばその相談を聞きにいくってなるとその人の家に行くことになる。でも、行ってあげたいけど今は行けない、だから、あな

たの近くに友達・会員がいるから、その人が行けるか確認しましょうって、そういう調整も私のところでやるんです。普段も、事業所に連絡することではなくて、ちょっとした困りごと、例えば嫁姑の問題で孫が障がいがあるって辛いのもってようなことを、話をしたいって言って喫茶店でやるんです、周りの人が聞いているのに。でも、場所がないんです。福祉会館のような場所が欲しいって言ってもないです。そういうところをせめて社協、ボラセンとかで受けていただけたら、第一報の電話だけでも継いでいただけたら、じゃあそこで会いましょうということで周りを気にしなくても話が聞けるんです。ファミレスでママさん達が盛り上がっている隣で「うちの家系に障がいを持っている子なんて生まれないわ」なんて言われていると、泣きながら話しているのを聞かなくていけないという辛さ、それをもう何十年とやってきているんです、先輩方も。身体障がいの方も目の不自由な方も、全部自分達の家で電話を受けて、自分達でやっているんです。そんな福祉相談なんて、少なくとも神奈川県下、私達の調べではないですよ。社協や福祉会館、ボラセンで受けて、そこから各障がい者団体の相談員さんに連絡が行くんです。でも藤沢市はそういう状況がずっとあるんです。事業所の連合団（**基幹相談事業所**）の支援もあるけれども、やっぱりあるじゃないですか、障がいを抱えている親同士の話とか、まだまだ泥臭いといえば泥臭いところがあるんです。そういうところで、ボランティアセンターなり、社協さんなりが、ちょっと関わっていただけるとすごく助かります。

委員：片瀬地区の場合は、ボランティアしおさいというのがあって、生活支援はそちら、ボランティアセンターは子育て支援と福祉相談をやっています。ですから、そういう方の相談も受けますので、少しはいいのかなと。ただ、障がい者の方に対しての支援はちょっと遅れている点ではあります。

委員：地区ボランティアセンターの周知度が低いというのは、私達の努力が足りなかったと今非常に反省しております。先ほどの拠点のこと、個人のお宅を使ってらっしゃると聞いて非常に大変だと思うんです。私達は、藤沢市で一番最初にボランティアセンターを立ち上げたものですから、拠点がなかったんです。公民館に、携帯1本で、どこか片隅に椅子を一つ置かせていただければ始められますって言ったんですけれども、それも駄目、全部拒否されました。そして、その当時の社協の会長さんだったお宅の離れを貸していただけることになって始めたんです。それから13年経って、その大家さんもう90歳を過ぎていらっしゃる。そうするとそこで続けることはもう無理なんですね。で、次の場所を探すのも大変で、市も非常に心配してくださって、本町小学校の改築の時にスペースを作ってくださいったんですが、私達の考えている、期待しているものとはとても違って使いにくい、とうとうそこはお

断りしたんです。便利かつ、足の不自由な方も大丈夫な平らなところが欲しいんですね。で、シャッター通りや空いてるテナント募集のところを借りて、続けていこうと思っておりますが、そういう大問題を抱えています。

委員：そういうのを聞いちゃうと何やってんのかなあと思っちゃうなあ。福祉計画もそうだけど、行政は、、、そうなっちゃう。

### 3) その他次期計画策定に関する事項について

今後の報告書作成及び来年度の策定のスケジュールについて市側が説明を行った。

副委員長：それでは時間がありますので、先ほどの方向性についてのお話と、今の今後についてのご意見ご質問ありましたらお受けいたします。ボランティアセンターの場所の問題はもうどこでも本当に苦労しておりますので、大変だと思います。鶴沼では、今使っているところは270坪のお宅で1階建てなんですけれども、結構広い土地を寄付してもらえて、たまたま使っています。それ以外にも住人が亡くなった37坪の2階建ての新しい家が、結局は引き取り手がなく施設の方に寄付した例があったり、もう1軒鶴沼海岸の方で時々行ってるんですけども、これがまた素晴らしいお宅で、お風呂とかお勝手が大理石でできている平屋の2人住まいで、応接もあって大きなテレビも揃っている。寄付しますよと市に言ったんですけども、市の方では、庭に灯籠も木もある、管理しきれないということでした。幸いにして鶴沼には、そういうお宅があるんですけども、場所という問題は難しいですよ。村岡地区も大変小さいところでやっていますけれども。

委員：先ほどの障がいのある方の相談の実態、これはその綺麗ごとの計画を作るという以前の問題のような気がしますし、それを解決できるようなものを立てないと意味がないような気がします。いわゆる本当の福祉とは、社会的な弱者に対してどういう形で手を差し伸べられるかというのが原点だと思いますので、そここのところに施策をどううっていくかということを経営に織り込む必要があると思う。御幣があるかもしれませんが、国全体でそういう弱者に対しての目線が非常に弱いような気がするんです。特に私は今、藤沢市がそういう実態なのかというのに非常に驚きました。買い物のお手伝いや植木の選定といったボランティアとはまた違ったボランティアさんをどういう形で支えて、応援していくのかという体制作りをやらないと本当の福祉は前に進まない。紙の上での話だけでなく、実際にどういう対応をとっていくかということを経営に考えていかないといけないと感じました。

委員：それで、障がい者団体と藤沢市の防災組織連絡協議会は、懇談会を始めたんです。前回の会合の時にもうちょっと回転を早めて、実際の対応について

話し合いましょうというお約束になった。そういう関係で、防災と障がい者、障がい者と社協だとか、いろんな団体が、もっと障がい者や弱者に対して、サポートできるような連携を深めていくにはどうしたらいいか、その連携もなかなか今は難しい。正直なところ要援護者の関係でそういうお宅に行ったときに、本当に助けてくれるんですかって迫られてしまう。本当につて言たって保証なんてできない、ただ懸命にやらせていただきますとしか言えないんです。だから、支える人と支えられる人のコミュニケーションがもうちょっと近くになっていかないといけない。その距離感が、親によって結構違っちゃうんです。そこは私も障がい者をもつ親の一人として、そこをちゃんとしっかり認識してもらいたいという希望はあります。

委員：今、障がい者団体って皆さんおっしゃっていますけど、地域の市関係者はそういう団体のことをよくご存知かと思います。ただ私達みたいな地域の人間は、そういう団体があることはわかっているけど、連携をどうとっていいのかも、その団体自体が地域にどういうふうにあるのかも全く知らされていないし、わかってない。地区社協の方がわかっているかと言ってもわかってないと思います。ですから、もしそういう連携をするのであれば、うちの地区のボラセンは、専門の先生も相談員の方もいらっしゃるんで、そういう方との話し合いも一部していると思いますけれども、できたら、もうちょっと私達関係者だけにでも、団体がどのような形であるか、どこにそういうコメントをとったらいのかっていうのを、地域におろしてもらわないと、わからないと思います。

委員：だから、地域福祉計画をもっと地区別におろしなさいと。おろさないからそうになっていっちゃう。

委員：おろされていないし、私達がセンターに行っても、そういうことは特別に考えられているのか、情報は入ってきません。そこでまた隔たりがでてくるんじゃないかなあと思います。

委員：それは、ちょっと残念だなあ。

委員：福祉関係の8法人で協議会を作っていて、防災に関してまず福祉避難所、市と法人で協定はあるけれども紙ベースなので、具体的に何をするかをきちっとやろうということで、去年ぐらいから協議を始めている。まずは自分達が住んでいる、拠点にしている地区を知ろう、というところからやっついていかなとなかなか難しいかなということで、14地区にどういう施設がどこにあるのかというマップ作っていきこう、我々も自分の事業所以外の事業所がどこにあるかよく知らないの、地区レベルに全部の事業所、少なくとも福祉施設がどこにあるかを落とししていこうということになった。で、それぞれの市民センターからもらうマップがあるんですが、市民センターによって作り

方が全然違って、その中にすごくいい作りのものがあって、そのことも我々初めてわかりました。まずはとにかく落として、各事業所にそれがおりて、少なくとも地区レベルでお互いに何かあったら調整しようじゃないかということを考えています。今、市にお願いしているのは、その中で市民センターとどう連携を取るかということ、地区毎で考える仕組みを作っていかなければ駄目だねというところを始めている。もっと進めて、多分小学校・中学校も含めて捉えていって、そこから一緒に考えるような枠を作っていかなければいけないと思う。今ここで地震があったらどうするという話で、何年先までという話では全くないので、ただどこかにやってくれと言っているだけではどうしようもない、動けるところがとにかく仕掛けていかないと、まずやれることをとにかく目に見える形でやって、あとは具体的に日常的な顔合わせをどうするのかというやりとりをしていかなければどうしようもない。だから、やはり浸透のためには、具体的にどこが・誰が・どんなふう・何のためにやるかというところまで計画をおとしていかないと、絵だけ変えてもどうしようもない。多分、実態的には自治会が一番中心になるんだけど、自治会も色々あるので、その辺の仕掛け方とかをやはり色々考えていかなきゃいけないかなと思っている。

先ほどの雪の話ですが、うちは80世帯位のマンションで、誰が動いたのかよくわからないんですけども、息子にも家の前も全部やって普段歩く歩道のところまでやれて言ったんですけど、帰ってくる道にばっと雪が埋められているんですね。皆自分の家の前の雪をどければ、すごく楽なんだろうけれども、逆にそれが出来なかった人に対してどうするのか、自分の家の前をやった次に生活ラインを皆でどうできるのか、多分そこに地域力が関係するのかな、何もできていないところは、多分その辺ができていなくて誰がやるのよ、俺はやらないよっていう感じなのかなあという気がしました。

副委員長：ありがとうございます。まだ、お話あると思いますが、これで議題1は終わりたいと思います。ご意見ありましたら、事務局に是非お話していただきたいと思います。それでは、議題2について事務局からお願いします。

## 2. その他

市側：まず、今年度最後ということでこの1年間、毎回闊達なご意見をいただき、本当にありがたく思っております。この場を借りて感謝を申し上げます。

今、議論が盛り上がった中で、計画を作るだけではだめだよということは、行政としても、しっかりと受け止めていかなければと思っています。ここでの議論を、しっかりと把握、分析して、次の計画に反映していくというのは

事務局の大きな責任と思っています。そこには先ほどご意見ありましたが、そういった福祉現場を見つめる覚悟みたいなものがないと、やっぱり進まないのかなと思っています。それと、皆さんこうして各関連団体から集まっていただいて、それぞれの存在をお互いに発信し合い、繋がっていくことも一歩かなあと感じているところでございます。そういった中で、事務局としては、先ほどご説明しましたが、報告書の作成が今年度の目標になっていますので、それについては案を3月中に送付をして、皆さんのご意見を反映したものをしっかりと作っていきたいと思っています。

それから今年度よかったなと思うことは、社会福祉協議会の職員の方に事務局に入っていただいたということです。今後、社協の作る活動計画と市のこの地域福祉計画、両者が一体となって地域福祉を進めるきっかけになったと思っています。地区ボランティアセンターも含め、色々な場面で市と社協が一体となっていく必要があると思っていますので、そういった面ではこの1年少しですが進んだかなと思っています。是非皆さんにおかれましては、市と社協を大いに使っていただき、連携を深められたらと思っています。

最後になりますが、冒頭お話したとおり、3月末で皆さまの任期が切れることとなります。本当に1年間お世話になりました、ありがとうございました。関連団体選出の方につきましては、別途団体さんの方にご依頼をさせていただきますので、よろしく願いをいたします。今後とも色々な面から皆さんのご支援を賜りますよう、よろしく願いいたします。

副委員長：ありがとうございました。時間もありますので、ご意見ありましたら事務局へ電話等を入れて言っていただくことにして、このメンバーでは最後になりますので、一言ずつご感想でも結構ですのでいただきたいと思います。

委員：今後の方向性については、介護保険制度の改正もあります、それで、地域包括ケアシステムということで、医療の必要な方も在宅であるような方向性になっております。65歳以上の60%は、病気をかかえてでも家で療養したいという希望があるという統計も出ています。従来介護というのは療養を終えた者が地域に戻って介護を受けるという形でしたけれども、これからは介護と医療を並行して在宅で、という時代になる、中介護、軽介護の部分はこれから養成されるボランティアさん、あるいはNPO法人などでという方向性が目に見えている状況です。そういうことで、先ほどから出ていますけれども、ボランティアセンターの機能を充実させていくというのが、今後の地域福祉推進にむけての課題だろうと感じました。

委員：先ほど言いましたので、はい。

委員：私も色々出来ることはやります、共助と公助で。今のところ、お話しうかがうと、その辺が、やっぱり問題かなと思います。

委員：子育て支援をもう23年位ずっとやってきているんですけど、子育てって、親はずっと親だし、その意味ではずっと子育てはしているのだけれど、一番大変な時期だけ支援が欲しいという形になっている。子ども会なんかもそうですけど、年代があがると卒業していく、枠はあるんだけど、中の人がどんどん入れ替わっていくということで福祉に入れにくいとか、見られにくいという曖昧な感じなんですけれども、初めて子育てをするお母さん達のものすごいプレッシャーを感じる時代に今生きているということ、そこにスポットを当てる必要がある、周りが手助けをするということが非常に大事だということをお伝えします。是非手助けをしてあげてほしいなと思います。

委員：色々な団体があって、福祉の面では藤沢市は頑張っている、という所が、やっぱり地域にもうちよっと浸透していけばいいかなと思っています。

委員：私も学生という立場であまり深いことについては、わからないこともあったんですけども、皆さんのご意見を聞いて勉強になりましたし、この会議に出席して、課題は色々山積みなのに、それに対しての危機感がなかったんだなということが大変問題だなと思いました。

委員：委員になってから、今まであまり細かく見なかった市の広報とか、議会だよりとか、市の予算案とか、そういうものに目を向けるようになって、福祉にどの位の予算を取っているのかとか、市の姿勢に対する見方も変わって大変勉強になりました。これからも、一般の方がなるべく広報などを見やすいようにして、そういう意識が広まるようにやっていただきたいと思います。

委員：私は藤沢市に来てからまだ4年位しか経ってないんですけども、他市ではいくつか審議会も経験させていただいた。自治会関係でも、こちらに来た途端に3.11が起こりまして、いきなり自治会の防災役員を買って出ました。そういう中で、市との関係とか色々勉強させていただいたんですが、こちらに参加させていただいて得たものを、これからまた自治会に帰って防災や地域福祉などに活かしていきたいと思っています。

委員：私も自治会連合会の会長の立場として、色々話を地域の方にする中で、行政を責めるばかりではなくて、行政が広報やネットで色々情報発信しているものを入手をする、そしてなるべく参加をするということで、自分達の地域は自分達で良くするんだ、何でも行政にやってもらおうということではなくて、納めている税金がちゃんと使われるよう、コストをかけないやり方があるはずだということで、そういう視点で、地域をより安全、安心のあるまちにしていかなければいけないと思っています。ということで、特に団塊の世代が段々65歳過ぎになっていて、そういう方達が家で時間を持て余してるのは非常にもったいない話だと思いますので、そういうところの啓発活動を、私としてはやっていきたいと思っています。

委員：今、世間をみると、独身の方が随分多いようにお見受けします。私の周りにも2人、高齢で独身の方がいて、子どももない、見てくれる人が誰もいないんです。でもこれからは、そういう方々のために福祉があるのではないかと思いますので、独身の方が若いうちにボランティアに参加して、自分が受ける前に、まずそういうことも学んでいただきたいなと思っています。

委員：色んな団体との情報交換が出来たことが、まずもって良かったと思っております。今後は、やはり皆さん全員が、それぞれの地域に帰ったときに、地域に根ざした福祉ということの一つのポイントとして、自分は御所見地区ですから、御所見にどう展開していくかということで、この委員会に加えて今後自分の活動としてできたらいいなと思っています。

委員：藤沢市社会福祉協議会の果たすべき役割、責任については十分認識しているところです。今後は、市行政とこれまで以上に連携をとっていき、また、具体的な施策も来年度になると新しい展開が出てくると思っておりますので、これからもよろしくお願いします。

委員：12月にあとから入ってきて、最初は少しわかりにくかったです。それで、民生委員児童委員協議会の中でも先日ヒアリングがありました。活動については、共有しながらやっているものも沢山あるし、地区毎に特色のあることもやってらっしゃるなというのをつくづく考えさせられている間にこの委員会がありました。ここに出席をさせていただき、幅広く色々なことを教えていただきました。団体のこういう方達がいらっしゃるんだなというのわかりました。地域へ戻った時に地域の中でそれを浸透させていくことの大事さ、私は地域に戻りますと地区社協の方にも携わっています。勉強させていただいたことを地域で活用していきたいと思っています。

委員：民生委員をたまたま長くやっているんですけども、それぞれの団体から出ていらっしゃる方のお話を聞かせていただいて、私達が考えている以上にもっと色々なお考えをお持ちの方がいらっしゃるということで、福祉というのはこんなに奥が深いものかと改めて感じました。私は辻堂なんですけれども、辻堂も東西にわかれています。それぞれの特徴や良さを活かしながら、こちらで学んだことを地域に返していければいいかなと思っています。

副委員長：ありがとうございました。これで皆さんのお話を伺うことができました。以上で、議事を終了し事務局にお返しします。